

信州の高山帯の自然は今

～高山生態系モニタリングに関する調査研究～



長野県環境保全研究所 自然環境部

長野県の特徴的な自然環境である高山生態系について、H25年から継続的に、短期的（ニホンジカによる摂食圧の増加等）・中長期的（気候変動）な環境変動に対する応答の把握に取り組んでいます。R1～R3年の期間は、経常的なモニタリングに加えて、八ヶ岳の高山生態系に注目してきました。

なぜ研究が必要なの？

<現状と課題>長野県の高山帯は、世界的な分布の南限であるライチョウをはじめ、高山植物の固有種も生育する貴重な生態系ですが、ニホンジカによる採食の影響や気候変動の影響が懸念されており、これら環境変動の影響を早期に検出する必要があります。



ライチョウ

<目的>高山生態系にどのような変化が生じるかを生物種・群集・気象を通じてモニタリングし、環境変動影響の大きい生物種や群集の保全対策を検討します。

どうやって研究するの？

①ライチョウなど希少動植物の生育・生息の現状調査

②シカの侵入など動物相・植生変化の定点調査

③気象・残雪（紅葉）の観測・撮影

について、県内山岳地に設けたモニタリング地点で行っています。その他、

④登山者参加型の山岳環境情報（ライチョウ等）の収集と分析

をすすめています。

北ア 爺ヶ岳

ライチョウ コア調査エリア
(国 保護増殖計画)

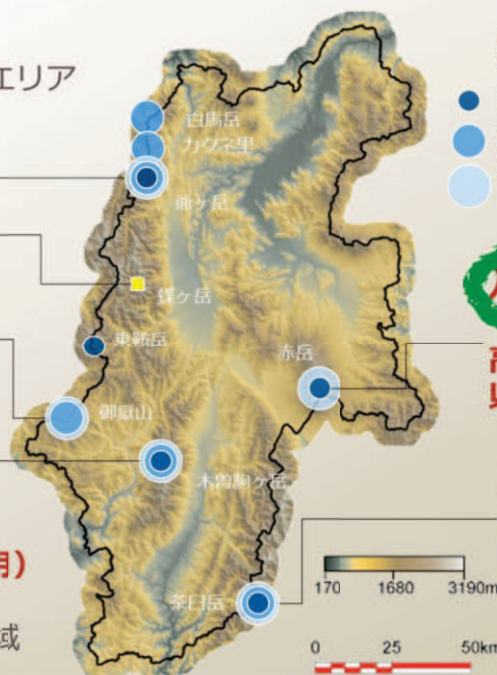
環境省
モニタリングサイト

御嶽山

火山・県立自然公園
ライチョウ地域集団

中ア 木曾駒ヶ岳

国定公園化 (R2年3月)
ライチョウ再導入
県固有高山植物 生育域



調査項目

- 気象観測
- 残雪・紅葉 観測
- 動植物 調査

八ヶ岳

高山植物ホットスポット
県固有高山植物 生育域

南ア 茶臼岳

ライチョウ・ハイマツ
世界的な分布南限域

これまでに分かったこと

- ・八ヶ岳固有種ヤツガタケキンポウゲの存続を確認
⇒ 種の保存法「特定第一種国内希少野生動植物」指定（令和2年2月）
- ・北アルプス高山帯へのシカ・イノシシ侵入確認
⇒ 北ア爺ヶ岳でのセンサーカメラによる調査で、ニホンジカ（H25年以降毎年）、イノシシ（H27年以降毎年）の高山帯への侵入を確認。
⇒ イノシシによるお花畑の掘り返し跡も確認
- ・スマホアプリ「ライポス」でライチョウ情報が300件以上
⇒ 長野県「ライチョウ保護スクラムプロジェクト」
監修・資料提供



高山帯（爺ヶ岳）に侵入したシカ
(2019年7月30日)

